第２課　不一致の原因

【暗唱聖句】

「主を畏れることは知恵の初め。聖なる方を知ることは分別の初め」箴言9：10

【今週のテーマ】

どのように不一致や分裂が起こるのか、聖書の中の実例から学んでいきます。

【日曜日・背信の子らよ、立ち帰れ】

イスラエルの歴史は不服従と無秩序、苦難や試練を通して神への立ち帰りと服従、その後再び不服従というパターンを何度繰り返しています。神様はイスラエルが約束に地に入る前からそうなることを予見しておられ、深刻な問題に発展しないように解決策を与えておられました。

「もし、あなたがあなたの神、主の御声によく聞き従い、今日わたしが命じる戒めをことごとく忠実に守るならば…」（申命記28：1）、以下のようなことを約束してくださっています。

１．「あなたの神、主は、あなたを地上のあらゆる国民にはるかにまさったものとしてくださる」（申命記28：1）

２．「あなたは町にいても祝福され、野にいても祝福される」（申命記28：3）

　 「入るときも祝福され、出て行くときも祝福される」（申命記28：6）

　　＊祝福の範囲…子供、畑の実り、家畜、籠・こね鉢・倉、手の働きすべて

３．「主は、あなたに立ち向かう敵を目の前で撃ち破られる」（申命記28：7）

４．「聖なる民とされる」（申命記28：9）

５．「地上のすべての民はあなたに畏れを抱く」（申命記28：10）

６．「常に上に立ち、決して下になることはないであろう」（申命記28：13）

神様の御声に聞き従うならば、このような素晴らしい約束が神様から与えられていたにも関わらず、イスラエルの民は神様に背信していきます。しかし、それでもなお主は預言者エレミヤを通して次のように語られました。

1. 主に立ち帰れ

「背信の女イスラエルよ、立ち帰れと主は言われる。わたしはお前に怒りの顔を向けない。わたしは慈しみ深く、とこしえに怒り続ける者ではないと主は言われる。ただ、お前の犯した罪を認めよ。お前は、お前の主なる神に背き、どこにでも茂る木があれば、その下で他国の男たちと乱れた行いをし、わたしの声に聞き従わなかったと主は言われる」エレミヤ3：12～14

ここに神様の愛と憐みに満ちた言葉が書かれてあります。背信したイスラエルに対して主に立ち帰るように言われます。これは主は赦してくださることを現わしています。神様は怒り続ける方ではないのです。ただ一つ条件があって、それは自分たちが犯した罪を認めることです。またどんなに少数であっても神様の憐みは等しく注がれます。

2．わずかな者たちでも

「背信の子らよ、立ち帰れ、と主は言われる。わたしこそあなたたちの主である。一つの町から一人、一つの氏族から二人ではあるが、わたしはあなたたちを連れてシオンに行こう。わたしはあなたたちに、心にかなう牧者たちを与える。彼らは賢く、巧みに導く」エレミヤ3：14～16

「一つの町から一人、一つの氏族から二人」と、シオンの丘にある聖所にイスラエルの人々が巡礼に上って神様に立ち帰る者たちはわずかであっても、神様の驚くべき恵みが約束されています。さらに、未来に目を向けさせ、

3．未来の希望

「あなたたちがこの地で大いに増えるとき、その日には、と主は言われる。人々はもはや、主の契約の箱について語らず、心に浮かべることも、思い起こすこともない。求めることも、作ることももはやない。その時、エルサレムは主の王座と呼ばれ、諸国の民は皆、そこに向かい、主の御名のもとにエルサレムに集まる。彼らは再び、かたくなで悪い心に従って歩むことをしない。その日、ユダの家はイスラエルの家と合流し、わたしがあなたたちの先祖の所有とした国へ、北の国から共に帰って来る」エレミヤ3：17～18

神殿祭司が保管していた契約の箱が、イスラエルとユダの人々のあいだで議論の的になっていました。しかし、「人々はもはや、主の契約の箱について語らず、心に浮かべることも、思い起こすこともな」くなるのです。これは契約の箱についてのその論議の無意味なことを明らかにします。何故それが無意味かというと、「その日には」契約の箱ではなく、エルサレム自体が神様の臨在を保証する「主の王座」になるからです。こうして再び一致が訪れるのです。

【月曜日・神の目に正しい】

「そのころイスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に正しいとすることを行っていた」士師記17：6

イスラエルがどのようにして分裂していくことになったのかを聖書は語っています。士師記に記録されていることは、イスラエルの民がカナンに入植すると、まだ王はいませんでした。王は必要なかったからです。彼らはただ主の御声に聞き従えばよかったのです。ところがだんだんと主の御心に従わず、それぞれ自分の目に正しいと思うことを行うようになっていきます。その中にはカナン人の信じる偽りの神バアルに仕えさえする者も出てくるほどでした。

「イスラエルの人々は主の目に悪とされることを行い、バアルに仕えるものとなった。彼らは自分たちをエジプトの地から導き出した先祖の神、主を捨て、他の神々、周囲の国の神々に従い、これにひれ伏して、主を怒らせた。 彼らは主を捨て、バアルとアシュトレトに仕えたので…」士師記2：11～13

イスラエルはこのように偽の宗教の影響を受けながら、自分の目に正しいと思うことを行うようになっていくにつれ、神の民の中に不一致が見られるようになっていきました。そして、神様の生命から断ち切られ、神様の祝福が達することがない状態に陥ったのです。本来であれば、カナン人たちから影響を受けるのではなく、神様の祝福の基として彼らがカナン人に神様の栄光を証し、神様の祝福を周囲に与えるものとならなければならなかったのでした。

【火曜日・国家の分裂】

ソロモン王の死後、国家は分裂します。シケムにおいてソロモンの息子であったレハブアムが王に即位する際に、王が民たちから信頼を得て良い国を築き上げていくうえで重要な機会が訪れました。それは民たちをどのように扱うのかということを公式に宣言する機会でした。父ソロモンは民に重税を課したために、民たちは苦しんでいました。税を軽くしてあげれば民たちの生活は楽になり、王は信頼を得ることができるのでした。ソロモンから逃げてエジプトに逃れていた家臣のヤロブアムは、レハブアムにそのことを進言します。そこでレハブアムは3日間の時間をもらい、2つのグループに相談します。一つは父ソロモンに仕えていた長老たち、もう一つは自分と共に育ち、自分に仕えている若者たちでした。長老たちは「もしあなたが今日この民の僕となり、彼らに仕えてその求めに応じ、優しい言葉をかけるなら、彼らはいつまでもあなたに仕えるはずです」（列王記上12章 7節）とアドバイスします。それに対して若者たちは、「民に、こう告げなさい。『わたしの小指は父の腰より太い。父がお前たちに重い軛を負わせたのだから、わたしは更にそれを重くする。父がお前たちを鞭で懲らしめたのだから、わたしはさそりで懲らしめる』」（列王記12：11）とアドバイスします。そして、レハブアムはこのアドバイスを受け入れるのです。その結果、どうなったのか、国は北と南に分裂してしまうのです。こうなることを神様はご存じでしたが、御心ではありませんでした。力を支配しよとするなら、一致を保つことなどできないという教訓です。

【水曜日・コリントでの分裂】

パウロはコリントの教会で様々な分裂が起こっているのを耳にします。このことを憂慮してパウロはコリントの教会に手紙を書きます。

「さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を一つにし思いを一つにして、固く結び合いなさい」コリント第一1：10

まずパウロは単刀直入に、勝手なことを言って仲たがいするようなことがあってはならない、心を一つにし思いを一つにして、固く結び合わなければならないことを勧告します。理由がどうであれ、仲たがいすること自体教会の中にあってはならないことであり、キリストにあるならば本来ありえないことなのです。しかも、この仲たがいは、「めいめい、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケファに」「わたしはキリストに」などと言い合っている」（コリント第一1：12）ことが原因でした。イエス様から目を離し、人間に目を向けていくことが不一致の原因となることがわかります。これは現代教会でもしばしば起こることです。わたしたちが召されたのは、キリストに従うためであって人間に従うためではありません。このことをパウロはコリントの信徒に思い出させます。クリスチャンの一致はキリストにあってのみ一致できるのであって、どれほど優れた指導者であったとしても、その人を通して一致していくものではないのです。

【木曜日・狼どもが…入り込んできて】

教会の一致を危うくするものの一つに、偽教師の存在があります。パウロは「残忍な狼ども」という表現を使って警告し、イエス様は羊の皮をかぶってやってくると同様の警告を発しています。偽教師は福音の純粋さを保つことを難しくさせ、人々を間違った方向へと導きます。真理に生きる正しい者たちとの間に必然的に不一致が生まれます。そして、間違った教えに傾倒してしまった人々との間に一致を保つことは非常に困難です。

「あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。俗悪な無駄話を避けなさい。そのような話をする者はますます不信心になっていき、その言葉は悪いはれ物のように広がります…」第二テモテ2：15～17

真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさいと書かれてあります。そして俗悪な無駄話を避けるように書かれてあります。俗悪的な話は不信心を助長し、周囲に人たちにも悪い影響を与えます。偽教師は誰か外からやってくる人のことだろうと思っているかもしれませんが、自分がそうなってしまう可能性があるのです。そうならないためにもしっかりと聖書を学び、御言葉を確信して生きていくことが重要です。

「だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです」テモテへの手紙二3：14～17